２００２年４月
山形県病害虫防除所

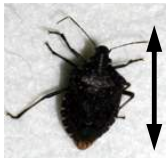
病害虫防除技術情報（Ｎｏ．４）　－診断技術－

きゅうりにおけるクサギカメムシの加害症状

きゅうりの幼果時にクサギカメムシの加害を受けると、くぼみや奇形の症状が発生することが再現試験により判明した。

＜再現試験の目的＞

平成１３年７月、クサギカメムシが露地の夏秋きゅうりほ場に飛来し、果実にくぼみや奇形が発生しているとの情報が寄せられた。この果実の異常がクサギカメムシによるものかどうか断定できなかったため、再現試験を実施した。



実物大
体長 13～18mm

きゅうりを加害するクサギカメムシ（平成１３年７月３１日、新庄市内）

くぼみの発生した果実とその断面（上の写真のほ場より同日採集）

＜再現試験の概要＞

実 施 日：平成１３年７月２５日（試験１）、２７日（試験２）

実施場所：山形市内の露地夏秋きゅうり栽培ほ場（７月１２日 DEP 剤散布以降無防除）

実施方法：

試験１　大きさ 5～8cm、10～15cm、15cm のきゅうり果実を水切り紙袋で覆い、それぞれクサギカメムシの成虫を１頭（１区のみ２頭）放飼した。13 時間後虫を回収し、放飼から２日後（5～8cm の区のみ８日後）に果実を収穫して調査した。

試験２　大きさ 3～5cm のきゅうり果実を水切り紙袋で覆い、クサギカメムシの成虫を３頭または４頭、幼虫を４頭それぞれ放飼した。３日後に虫を回収し、放飼から６日後に果実を収穫して調査した。

結果の概要：

試験１　成虫１頭放飼した区では、明確な被害と思われる症状はみられなかった。２頭放飼した区では軽いくぼみがみられ、果実内部にも一部空洞がみられた。

試験２　きゅうり幼果に複数放飼した区では、成虫、幼虫ともに果実にくぼみや曲がりが発生し、曲がった果実の内部には空洞が発生した。

試験１（成虫１頭、13 時間放飼、放飼２日後撮影）
左３本が放飼した果実、右端は無放飼

試験２（複数、３日間放飼、放飼６日後撮影）
左側から成虫４頭、幼虫４頭放飼、右２本は無放飼

試験２　成虫４頭放飼した果実の断面

試験２　幼虫４頭放飼した果実の断面

以上の結果により、きゅうりの幼果時に加害を受けると、果実に曲がりやくぼみができ、その内部に空洞が発生することを確認した。

問い合わせ先　山形県病害虫防除所　　執筆者：草田仁志、伊藤慎一
TEL：023-644-4241　　e-mail：ybyogaichu@pref.yamagata.jp

禁無断転載